高校生のための関なかサーチ　実施報告

◆開催概要

日　　時　　令和６年６月１５日（土）９：３０～１６：００
場　　所　　せきてらす　及び　本町商店街
参 加 者　　高校生　１６名（関高７名、武義２名、関有知３名、各務原西３名、岐阜未来１名）
講　　師　　大学教員　４名（講師補助として大学生１１名も参加）
　　岐阜大学地域科学部　合掌顕 氏
　　中部学院大学人間福祉学部　水野友有 氏
　　岐阜医療科学大学　井戸恵里 氏
　　岐阜大学社会システム経営学環　三井栄 氏
ゲ ス ト　　株式会社セキ日和　平野祥 氏
開催形態　　共催：関市市民協働課、岐阜大学地域科学部、中部学院大学、
　　岐阜医療科学大学、岐阜大学社会システム経営学環

◆当日の様子

【午前の部】

ゲストトーク

大学教員によるミニ講義

フィールドワーク

【午後の部】

まとめのワークショップ

発表

◆タイムスケジュール（詳細）

9：00　受付開始
9：30　イベント開始、関市の概要説明
9：40　ゲストトーク
10：10　大学教員４名によるミニ講義
10：50　４チームに分かれてフィールドワーク　※下記参照
12：15　昼食
13：30　まとめのワークショップ
14：40　各グループの発表、質疑応答
15：40　講師による総括
15：50　市民協働課から若者事業紹介、アンケート実施
16：00　終了

◆フィールドワーク（本町商店街）について

大学教授の専門領域に合わせて、チームごとにテーマを設定し、まちあるきをした。
各テーマ、訪問先、ワークショップで出た意見（抜粋）は以下の通り。

〇岐阜大学地域科学部　合掌顕 氏

テーマ：「まちなかの“たまる”空間をデザインする」
意　見：ひねもすぽっとは、私有地かと思うくらいきれいなので、使用を促すような看板があると安心して遊べる。日影や自販機があると親子でも遊びやすい。
古民家あいせきは、雰囲気がよく自由な使い方ができるが、勉強している人が多くて静かだった。区切られたスペースがあると自由におしゃべりできるかもしれない。
本町ネクストは、車道と駐車場に挟まれているので実際座ってみたら通行人と目が合ったりした。場所の見直しをしたりすると落ち着いて過ごせると思う。
本町 BASE は壁がガラス張りで開放的な空間で、木のぬくもりを感じられる。
外に日影がないので、日を遮れるものが欲しい。長机があるとみんなで作業できる。
⇒たまり場という視点で見ると、改善次第でさらに有効活用ができると思う。

〇中部学院大学人間福祉学部　水野友有 氏

テーマ：「誰かと歩きたいまち ～インクルーシブアートの視点から考える～」
意　見：友達と歩く視点でみると、レトロな街並みや若者でも入りやすいお店が意外とたくさんあった。ひねもすぽっとのような広い場所でピクニックがしたい。
車いすユーザーの視点でみると、思ったよりもバリアフリーで歩きやすかった。古民家あいせきにスロープがあると、中に入りやすい。電動車いすだと超えられないような段差があったので、そのあたりの点が改善されるともっと歩きやすくなる。
視覚障がい者（弱視）の視点でみると、転んでしまうような大きな段差はなく歩きやすかったが、小さい段差は気づきにくいので、整備してもらえると嬉しい。点字ブロックなど、車道と歩道の色をはっきりと分けてもらえると安心して歩ける。関市は、音や香り、お店の味を感じながら歩けるいい街だと思った。

〇岐阜医療科学大学看護学部　井戸恵里 氏

テーマ：「one small step ～できたらいいな♪こんな関（まち）～」

意　見：商店街を歩いたりお店を訪れたりして、すれ違ったときに挨拶をしてくれたり、話しかけてくれる市民と出会えたのでとても温かいまちだと感じた。

古民家あいせきや商店街内は、看板などの案内がなくてどんなお店があるのかがわかりにくかった。お店の情報や場所が一目でわかるようなマップや看板が欲しい。

観光的な視点で、外国語に翻訳したものがあると外国人も呼べるかもしれない。

バス停が昔ながらのまま残っているが、木の模型を使って装飾したり、映えるようなスポットがあると、おしゃれになるし待っていて楽しい場所にできると思う。

ひねもすぽっとにクレープ屋を置いて親子で楽しめるような仕掛けや、まちのシンボルとなるようなものがあると来てくれた人にインパクトを与えられると思う。

人を呼び込むためにもっと空き家を活用したり、若者がいけるようなカフェや、ちょっと変わった面白い自販機があると、若者にとって活気のあるまちになるかもしれない。

シャッターにまちでやりたいことを付箋に書いて張ったりして、みんなで見れるようにすることで、みんなの掲示板みたいなものができると面白いかもしれない。

〇岐阜大学社会システム経営学環　三井栄 氏

テーマ：「商店街バズらせ大作戦 ―立ち寄るしかけ―」

意　見：本町ネクストは、木の温かさを感じられるベンチで、近くで購入した食べ物を食べながら友達と話せるのがいいと思った。商店街もレトロな感じで、昭和の雰囲気を感じられるいい場所だと思った。

改善点は、お店が開店しているのか、閉店しているのかわかりにくくて、整備されていない点と、一部老巧化が進んでいて景観が損なわれていたり、道路標識や街灯が壊れたままな点。

まちのスポットの魅力は、古民家あいせきの中庭で、とても心和む場所だった。長良川鉄道にも様々なイラストがあって、見ていて楽しかった。

たけやの団子・五平餅や、虎屋の鮎菓子など美味しくて可愛いものもあった。

スポットの魅力発信・バズらせるためには、たまり場となる古民家あいせきやわかくさ・プラザで情報発信をするのがいいと思う。

本町商店街はシャッター街化していて活気がないという印象を持っていたけど、若者にとって新しい魅力的なお店もたくさんできていると知った。

◆参加者アンケート結果　※１２名回答（参加者１６名中）

・イベント内容について、１２人中１０名が「とても良かった」と回答した。

・参加理由（自由記入）は、「まちづくりに興味があるから」「大学に興味があったから」と答えた人が大半であった。

・イベント参加前後の変化について、関市に対するイメージが「変わった」と回答したのは１１名だった。

・自由感想では、「実際に商店街を歩いてみて、地元の魅力に気づくことができた」「まちづくりに興味が出たし、関市に対する印象が変わった」「大学生や先生と話せて、とても貴重な体験ができた」などの意見が寄せられた。